

奥原弘人先生の思い出

松田 行雄

Yukio Matsuda : Memory of the late Mr. Hiroto Okuhara.

平成13年12月 7日、群馬県鬼石町の「冬ザクラ」を見に出かけ、夜遅く帰って来て先生の訃報を受けました。翌朝先生にお会いしました。先生は生前、私達に植物のお話をして下さった時のような静かな優しい寝顔でした。今にも目を開いて「良く来てくれたな」と声をかけて下さるような寝顔でした。心からご冥福をお祈りし、お別れを申し上げました。先生は平成13年12月6日のご逝去で、享年95歳でした。

先生は1906（明治39年）西筑摩郡奈川村神谷に生まれ、松本中学校、長野県師範学校を卒業、1927（昭和2年）から1962（昭和37年）まで県下の小・中学校に訓導・教頭・校長として勤務、この間下伊那教育会自然調査委員、木曽教育会御岳駒ヶ岳調査会の調査委員・調査委員長を勤め、木曽植物同好会を組織しました。木曽以外でも植物関係で活躍され長野県植物誌編纂委員長（13年間）、信濃教育会臨地講習会講師（16年間）、松本市環境公害審議会委員（12年間）、各市町村の村誌編纂委員の重責を果たしながら、先生ご自身の研究進めると同時に後輩の育成に尽力されました。

退職後は木曽谷を中心に植物の分布調査に専心され、昭和46年（1971）「木曽谷の植物」を出版されました。編集後記には「出版までに9年間で費やしてしまいました。これは私の人生にとって短い年月ではなかった」また「この書には既に雑誌に発表したのに手を入れた部分もあるが大部分は新しい発表である。調査不足や考察の不十分なところもあるが私としては精魂を傾けたつもりである」と記され先生の人となりが見えます。また本を開き分布図1枚を見ても、先生が一人で山奥に分け入り、生育を確認した1点であると思うと疎かにはできず、1点を打った時の先生のお喜びのお姿が目に見えるように思われます。この本は現職中からの記録や標本を基に纏め

られた著書であったから、最後の仕上げに9年が必要であったと思います。先生の学問にたいする姿勢が学び取られます。そして私たちに研究のあり方を態度で示して下さいという著書と思います。

「木曽谷の植物」出版後も植物研究に没頭され、多くの著書や論文を発表されました。それらに対し1989年（平成元年）には勲五等瑞宝章（教育功労）の叙勲がありました。

85歳の高齢時には「長野県植物誌」にスミレ科・ヤナギ科・セリ科・タンポポ属と分類群の困難なグループの種の分類や解説を担当され執筆されました。退職後、植物誌編纂委員長として取り組まれた著書でしたから出版時にはことのほかお喜びになり、植物誌に関わられた多くの皆様に感謝を述べておられました。一部を紹介します。

91歳の春、20年かけた植物誌が出版され、祝賀会が計画されました。祝賀会へのご出席をお伺いしたところ「厳寒の候 ご苦労様です いよいよ植物誌が発刊になる由 努力された皆様の喜びは如何ばかりか お祝い申し上げます …… 当日は皆様にお目にかかり御礼を申し上げたり、喜びを共にすればと思いますが 厳冬の今日では一日一日の生活が問題故失礼いたします。よろしく願いいたします」とお手紙を頂き、祝賀会の時期を誤った。申し訳ないと思いました。その後平成11年「長野県植物誌」が多くの方々の推薦をうけて「信濃賞」を頂くことになりました。先生と一緒に電車で長野へでかけました。先生は大変喜んでおられ、お元気でした。私は92歳という先生の高齢を忘れる一日でした。その後記念写真をお届けしました。それに対するお手紙もいただきました。

「炎暑が続きますが ご健勝でなによりと存じます 過日は浅学で高齢ながら同志の皆様のお力添えを頂き贈呈式に招待されました

心から感謝申し上げます ……」

謙虚な先生のお姿でした。92歳の時には生まれ故郷の「奈川村の植物」を纏められたり、「野麦峠のアザミ」についての論文を執筆されました。先生の生活を改めて見直させて頂くと、凄い 一言に尽きる植物との生活でした。生涯を植物の研究にささげた先生ですから、黄泉の国でも自然のなかで、植物の観察を楽しんでおられることと思います。

合掌

先生の業績の一部を紹介させていただきます
(落ちがあるかと思いますがお許し下さい)

著書、論文

- 1971 賤母国有林の植物 信濃教育
- 1956 木曾谷の気生蘭 植物研究雑誌
- 1958 キソキイチゴについて 北陸の植物
- 1960 木曾谷のシダ 日本シダの会会報
- 1961 木曾谷のミツバツツジ類 植物研究雑誌
- 1968 木曾谷で問題になる二三の植物
長野県植物研究会誌 1
- 1969 マルバノキの分布について 北陸の植物
- 1969 ハスノハイチゴの分布について (共著) 植物分類地理
- 1971 木曾谷の植物 木曾教育会
- 1975 木曾谷の植物 補遺 長野県植物研究会誌 8
- 1978 長野県野草図鑑 上, 下, 別巻
信濃毎日新聞社
- 1978 賤母国有林の植物 長野県植物研究会誌 11
- 1980 信州の高山植物(共著) 信濃毎日新聞社
- 1982~1991 新知見あれこれ 1~9 長野県植物研究会誌 15~24
- 1982 サクラ属の新雑種エボシザクラについて(共著) 長野県植物研究会誌 15
- 1983~ 市町村誌(本郷・麻績・坂北・山口・奈川等9ヶ村) 調査執筆
- 1990 信州の野草 信濃毎日新聞社
- 1992 信州の珍しい植物 信濃毎日新聞社

- 1994 信濃野生植物総目録 自費出版
- 1997 御岳の植物 木曾教育会
- 1997 大桑村の植物 大桑村教育委員会
- 1997 長野県植物誌 信濃毎日新聞社
スミレ科・ヤナギ科・セリ科・タンポポ属担当
- 1998 奈川村の植物 奈川村教育委員会
- 1998 ヤナギの間種と野麦峠のアザミ 長野県植物研究会誌 31

発見し正式発表された植物

ウラジロノアザミ・エボシザクラ・オクハラスミレ・オンタケイチゲ・キソミツバツツジ・ケナシシロシヤクヤク・コマガタケスミレ・シダレイヌコリヤナギ・シダレコゴメヤナギ・タチツルマメ・チノダンポポ・トゲノリクラアザミ・ナガワスミレ・ナギソスミレ・ホクチキクアザミ・ヤエザキダイモンジソウなど。

発見したが仮の名前で発表されている植物

アテラアザミ・アズミコホタルイ・アズミアザミ(フジアザミ×ネバリアズマヤマアザミ)・イズナアザミ・イチゲナルコユリ・オオバアシュウテンナンショウ・オオマチアザミ(ヤチアザミ×ナンブアザミ)・オノエコオニユリ・カサネギアシュウテンナンショウ・カミコウチアザミ(ノリクラアザミ×ネバリアズマヤマアザミ)・カミコウチシラスゲ・カミコウチタンポポ・カズザキオオウバユリ・キソホトギス・キソユキザサ・キスマアザミ(マアザミ×スズカアザミ)・コブクベンケイ・シガフジアザミ・シナノセツブンソウ・シラホネアザミ・スギモトアザミ(ノリクラアザミ×ナンブアザミ)・タケシアザミ・チクマイワタケソウ・チクマジガバチ・ツノダシクモノスシダ・トゲノリクラアザミ・トウヤマアザミ(フジアザミ×ネバリアズマヤマアザミ)・トダイヤナギ・トウナンアザミ・ナガバキリンソウ・ナガワクルマバハグマ・ナガミノタケシマラン・ナガワスミレ・ナガミノツバメオモト・ノコギリシシガシラ・ヒジリアザミ(ヤチアザミ×エゾヤマアザミ)・ワイリシナノスミレ・フタマタビロウドシダ・フタマタコタニワタリ・フトボタデ・フジクラアザミ(フジアザミ×ノリクラアザミ)・ベニバナカンサイタンポポ・ホソノリクラアザミ・ホソバウラジロフサザクラ・ホソノリクラアザミ・ミソガワアザミ(アズマヤマアザミ×ノリクラアザミ)・ミスズコホタルイ・ムラサキカモガヤ・ヤマグチアザミ(アズマヤマアザミ×スズカアザミ)・ヤエタチツボスミレなど。